

I かい ぎ 会議ほうこくの報告

だい き だいひょうしゃ
 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 第15期代表者 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊



ねん がつ にち にち だい き がいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ ねんどだい かいだい にち しゅうごうしゃしん
 2024年4月21日（日）第15期外国人市民代表者会議2024年度第1回第1日 集合写真

だいひょうしゃかいぎ みつ きーわーど
 ＊ ＊ ＊ 代表者会議の3つのキーワード ＊ ＊ ＊

ようきゅう さんか
要求から参加へ

ようきゅう
 要求するだけではなく
 せっきょくてき しせい さんか
 積極的に市政参加・
 しゃかい さんか
 社会参加をしていく。

こべつ ぷへん
個別と普遍

こべつ ちが なか
 個別の違いの中から
 だれ なっとく
 誰をも納得させる
 ぷへんてき さが
 普遍的なものを探す。

そうごりかい きょうせい
相互理解と共生

がいこくじん にほんじん
 外国人も日本人も
 たが りかい つと
 お互いの理解に努め、
 きょうせい はか
 共生を図る。

がいこくじん す にほんじん す
「外国人の住みやすいまちは、日本人も住みやすい」

1

かいぎかいさいがいよう
会議開催概要

かいき	かいさいび 開催日 ／場所	ぎじがいよう 議事概要	だいひょうしゃ 代表者	ぼちおしよ 傍聴者
第1 回	だいichi 第1日 2024年 がつにち 4月21日 14:00～17:00 かわさきしやくしよ 川崎市役所 ほんちようしき 本庁舎	いしよくしき ・委嘱式 だいひょうしゃじこしょうかい ・代表者の自己紹介 せいふくいんちようせんしゆつ ・正副委員長の選出 ねんかんについで ・年間日程について しんぎすけじゅーる ・審議スケジュールについて	にん 26人	ふたり 2人
	だいichi 第2日 2024年 がつにち 5月19日 14:00～17:00 こくさいこうりゆう 国際交流 せんたー センター	りんじかい ・臨時会について じつこういんかい ・実行委員会について しんぎかいとういん ・市の審議会等委員について しきつ ・視察について しせいしゅうねん ・市制100周年について ぐるーぷでいすかつしよんぐるーぷでいすかつしよんほうこく ・グループディスカッション、グループディスカッションの報告 しんぎすけじゅーる ・審議スケジュールについて	にん 26人	にん 3人
第2 回	だいichi 第1日 2024年 がつにち 6月16日 14:00～17:00 こくさいこうりゆう 国際交流 せんたー センター	しぎかいふんきよういんかいほうちよう ・市議会文教委員会の傍聴について いべんとさんか ・イベントへの参加について しんぎすけじゅーる ・審議スケジュールについて しんぎてーまていげん ・審議テーマと提言について おーぶんかいぎ ・オープン会議について じつこういんかいほうこく ・実行委員会報告	にん 23人	にん 5人
	だいichi 第2日 2024年 がつようか 9月8日 14:00～17:00 こくさいこうりゆう 国際交流 せんたー センター	ねんとかいぎについで ・2025年度の会議日程について しみんまつ ・かわさき市民祭りについて いべんとさんか ・イベントへの参加について ぶかいせつちしんぎてーま ・部会の設置と審議テーマについて おーぶんかいぎ ・オープン会議について しせいしゅうねんきねんとりくみ ・市制100周年記念の取組について じつこういんかいほうこく ・実行委員会報告	にん 23人	にん 4人

会期	開催日 ／場所	議事概要	代表者	傍聴者
第3回	第1日 つうさん通算⑤ 2024年 10月13日 14:00～17:00 国際交流センター	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度年次報告書について オープン会議について 部会の設置について 部会審議 部会報告 実行委員会報告 	24人	4人
	第2日 つうさん通算⑥ 2024年 11月10日 14:00～17:00 国際交流センター	<ul style="list-style-type: none"> イベントへの参加について オープン会議について 部会審議 多文化社会部会:情報発信・周知について 安心生活部会:防災・災害について 部会報告 実行委員会報告 	25人	16人
臨時 かい	つうさん通算⑦ 2024年 12月15日 14:00～17:00 中原市民館	<ul style="list-style-type: none"> オープン会議 全体会 開会、代表者の自己紹介、グループディスカッションの説明 グループディスカッション グループ1、2、3:情報発信・周知、子育て・教育、夫婦別姓 グループ4、5、6:防災・災害、医療、共生コミュニティの形成 全体会 グループディスカッションの報告、コメント、閉会 	参加者 68人	
第4回	第1日 つうさん通算⑧ 2025年 1月19日 14:00～17:00 国際交流センター	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度年次報告書について 提言の取組状況について オープン会議の振り返りについて 部会審議 多文化社会部会:子育て・教育について 安心生活部会:共生コミュニティの形成について 部会報告 実行委員会報告 	21人	7人
	第2日 つうさん通算⑨ 2025年 2月16日 14:00～17:00 国際交流センター	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度年次報告書について 2025年度の会議日程について 実行委員会について 部会審議 多文化社会部会:別姓の家族証明について(テーマ名を「夫婦別姓」から変更) 安心生活部会:医療について 部会報告 実行委員会報告 	24人	7人

2 調査審議の内容

【1】会議の運営

1 代表者の委嘱、正副委員長の選出

2024年4月から第15期川崎市外国人市民代表者会議（以下「代表者会議」という。）が始まりました。

第1回第1日（4月21日）の会議では、福田紀彦市長から代表者に委嘱状が交付され、代表者が互いに自己紹介をしました。その後、条例と運営要綱で定められた正副委員長
の役割を確認し、選出方法について審議・決定しました。投票により、委員長はセネ
アイサトウ チンポ、副委員長はスリニヴァサン スチュエタに決まりました。

2 調査審議の進め方（審議テーマの決定と部会の設置）

第1回第2日（5月19日）の会議では、第15期の調査審議の進め方について話し合い、前期ま
での反省や課題を踏まえて、進め方を決めました。具体的には、グループディスカッション
を行い、代表者同士の問題意識、アイデアの共有を図り、さらに、第2回第1日（6月16日）
の会議では、審議テーマと提言について勉強する時間を設けました。

その後、第2回第2日（9月8日）の会議で、委員がそれぞれ出し合ったテーマの中から、審議
テーマを6つに絞り、2つの部会に分かれて審議を深めていくこととしました。代表者全員
が2つの部会のどちらに所属するかを本人の希望により決め、それぞれの部会で部会長・
副部会長、部会の名称等を決めました。

《多文化社会部会》

部会長：アディダヤ ヨザ

副部会長：鄭 載勳

審議テーマ：a. 情報発信・周知

b. 子育て・教育

c. 別姓の家族証明（※）

（※）第4回第2日（2月16日）の部会審議において「夫婦別姓」から「別姓の家族証明」に変更

あんしんせいかつぶかい
《安心生活部会》

ぶかいちょう しゃん ぼうじよ
部会長 : 単 望舒

ふくぶかいちょう きむ すよん
副部会長 : 金 寿瑛

しんぎてーま ぼうさい さいがい
審議テーマ : a. 防災・災害

きようせいこみゆにてい けいせい
b. 共生コミュニティの形成

いりよう
c. 医療



ぜんたいかい ようす
全体会の様子



ぐるーぷでいすかつしょん ようす
グループディスカッションの様子

3 正副委員長部会長会議の開催

代表者会議の円滑な運営を図るため、事前に正副委員長部会長会議を開催し、次回会議の進行、部会の審議内容・資料等について確認しました。

<開催経過と主な議題>

①正副委員長会議

かい 回	かいさいび 開催日	ぎ 議 だい 題
1	2024年 5月9日(木)	第1回第2日会議次第について
2	6月6日(木)	第2回第1日会議次第について
3	8月29日(木)	第2回第2日会議次第について
4	9月26日(木)	第3回第1日会議次第について

②正副委員長部会長会議

かい 回	かいさいび 開催日	ぎ 議 だい 題
1	2024年 10月31日(木)	第3回第2日会議次第、部会審議について
2	2025年 1月9日(木)	第4回第1日会議次第、部会審議について
3	2月6日(木)	第4回第2日会議次第、部会審議について



多文化社会部会



安心生活部会

【2】調査審議で出された意見

1 多文化社会部会

(1) 情報発信・周知について

- ① 必要なタイミングで情報を知ることができるとうい。
- ② 日本語が通じない人へのサポートを考える必要がある。
- ③ 情報が多すぎるのでフローになっているとうい。
- ④ 高齢者など紙媒体が必要な方のことも考える必要がある。

(2) 子育て・教育について

- ① 両親学級に参加するとグループ分けされるが、日本語が話せない外国人夫婦が参加した際うまくなじめず、他の人との関係性づくりが難しそうだった。
- ② 孤立している外国人の親がいるので、サポートが必要。
- ③ 「子育てチャート」の続きとして、小学校以降のチャートがあるとよい。
- ④ 宗教上の食事制限などを理由に保育園・幼稚園に入れてもらえない場合がある。

(3) 別姓の家族証明について

- ① 家族関係の証明について困っている外国人に関するデータはない。
- ② 家族関係を証明するためには、住民票の写しを持ち歩けばよいのではないかと。
- ③ 通称をどのような場合に登録することができるのかについて周知が足りない。
- ④ 審議内容に合わせてテーマ名を変更したほうがよいのではないかと。

2 安心生活部会

(1) 防災・災害について

- ① 防災・災害に関する情報があっても意識しないとなかなか見ない。
- ② 情報の発信をどのように工夫していくか考える必要がある。
- ③ 市がまだできていない部分を、代表者会議でツールをつくるなどして提言できるとよい。

(2) 共生コミュニティの形成について

- ① 町内会・自治会がどういったものかが外国人市民に伝わっていない。
- ② 今後、共生コミュニティというときのコミュニティの単位は「住んでいる身近な地域」を共通認識として審議していく。

(3) 医療について

- ① 川崎市で医療通訳の人材を育成したらどうか。
- ② 通訳を派遣しないでよいシステムをつくることはできないか。
- ③ テーマを絞って外国人のメンタルヘルスにフォーカスしたらどうか。



ぶかいほうこく ようす
部会報告の様子

【3】臨時会（オープン会議）

日 時 2024年12月15日（日） 14:00～17:00

場 所 中原市民館 2階 多目的ホール

参加者 68人

コメンテーター

土田 久美子（駒澤大学文学部 准教授）

加藤 恵美（帝京大学外国語学部 准教授）

全体会：代表者会議の紹介等

グループディスカッション：代表者と参加者が意見交換

全体会：グループディスカッション報告、コメント

1 趣旨・目的

- 第15期代表者会議の審議テーマ6つを中心に、代表者以外の人の意見や専門家の話を聞き、審議の参考にする。
- 外国人をめぐる状況について、広く現状を把握する機会とする。
- 代表者会議のPR、外国人市民同士及び外国人市民と日本人市民の交流と出会いの場とする。

2 開催概要

第15期代表者会議の6つの審議テーマ（①防災・災害、②医療、③子育て・教育、④情報発信・周知、⑤共生コミュニティの形成、⑥夫婦別姓）を紹介し、6つのグループに分かれ、代表者と参加者が自由に意見交換・議論をした。その後、各グループが発表を行い、コメンテーターからコメントをいただいた。

- 開会、主催者及び川崎市あいさつ、代表者の自己紹介、

代表者会議の説明、グループディスカッションの説明

- グループディスカッション

- グループディスカッションの報告、コメント

- 交流会

会議終了後、代表者と参加者が自由に懇談するための時間を設けた。

3 グループディスカッション

グループ1、2、3は「情報発信・周知」「子育て・教育」「夫婦別姓」をテーマとし、グループ4、5、6は「防災・災害」「医療」「共生コミュニティの形成」をテーマとした。

(1) 全体会でのグループディスカッションの報告の要旨

【グループ1】

■情報発信・周知

- ・情報をもらえていない。
- ・経験者から情報を多くもらったりする。
- ・情報がありすぎるので、何が大切な情報かを見極める必要がある。
- ・新しい情報なのか古い情報なのかわからないことがある。
- ・日本では、スマートフォンがあれば色々な情報をもらえる可能性が高いと思う。

■子育て・教育

- ・ママ友を見つけるためのコミュニティが欲しい。
- ・困ったとき誰に相談すればよいかわからない。
- ・子育てのための集まりがあっても、日本語を話せないと情報を得ることが難しい。

■夫婦別姓

- ・緊急で病院に行ったときなど、姓が違っていると親子関係を確認される。
- ・住民票など以外にも、親子関係を証明する方法があるとよい。
- ・日本人の側が、親子の姓が違おうという状況にもう慣れていると思う。

【グループ2】

■情報発信・周知

- ・情報が届かない。特に、インターネット上の情報は高齢の方には届きにくいのではないかと。
- ・コミュニティに入ることは有効。
- ・実は情報を知らない場合が多いので、お互いの知っている情報をシェアして、そこにアクセスできる仕組みがあるとよいと思う。

■子育て・教育

- ・外国人は、日本の子育てのイメージを持ちにくいので、いつ何をするかを一つにまとめたフローチャートがあると役に立つと思う。

■ 夫婦別姓

- ・病院に行ったときや、緊急の手術のときに親子関係を証明できるものがないと困る。
- ・母子手帳や住民票などいつも持っているわけではない。
- ・夫婦別姓の国では例えばどうしているかを考えるとヒントがあるのではないか。

■ その他

- ・ごみを捨てるときにもっとしっかり分別をしてもらうためには、捨てる場所を増やすとよいのではないか。

【グループ3】

■ 情報発信・周知

- ・情報が多すぎて必要な情報を探ることが大変。
- ・情報を発信するとき、日本語が通じる人と通じない人で分けて支援する必要がある。
- ・困ったときどこに相談すればよいのかわかればよい。

■ 子育て・教育

- ・川崎市には、市立学校での日本語支援の仕組みと、母国語サポートの仕組みがある。
- ・高校受験、大学受験が日本語のみで行われるなど受験が難しい。
- ・日本に住んでいる外国人の子どもは母国語がわからず、その親は日本語がわからないという場合にコミュニケーションが難しいということがある。

■ 夫婦別姓

- ・親子関係を簡単に証明できるカードみたいなものがあればよい。

■ その他

- ・日本人が、外国人と仲良くなるためにはどこに行けばよいかわからない。

【グループ4】

■ 防災・災害

- ・水害を実際に経験して、そのときトイレが一番問題となった。
- ・備蓄のことや、その使い方がわからない外国人は多い。
- ・地震のとき、日本では震度とマグニチュードの表記があるが、どちらをどのように見ればよいのか、日本人も含めて認識する必要がある。
- ・災害に備えて準備しておく物品の情報が届いていない場合どうするか。

■医療

- ・病気のときにまずどこに電話すればよいかわからない。ワンストップセンターの連絡先を、「川崎市に住む外国人の皆さんへ」の最初に載せて欲しい。
- ・電話をして、他の場所に電話をするよう言われることがあるが、外国人にとって日本語で説明することは難しいことなので、一回の電話で最後の場所までつないで欲しい。
- ・AI や chatGPT などを活用して、自分の症状を母語で入力すると正確な情報が出るような取組をして欲しい。

■共生コミュニティの形成

- ・趣味をテーマにしたイベントを区ごとに定期的に行うとよい。

■その他

- ・夫婦別姓については、外国人だけではなく日本人でも事実婚の場合など同じ問題がある。

【グループ5】

■防災・災害

- ・災害などの緊急時に、パスポートや在留カードをなくしたらどうなるのか。
- ・防災では、災害の起こる前に情報を得ることが大切であり、情報は主に知り合いやインターネットから得ることとなる。
- ・町内会のポスターなどを、〈やさしい日本語〉や多言語で作るなどすれば、もう少し防災訓練とかの参加率が高まるのではないかな。
- ・引っ越しの際に、区ごとの避難所などの案内があるとよい。

■医療

- ・通訳が一番大切である。
- ・川崎市のホームページ内の医療のページに情報をもっとまとめたほうがよい。

■共生コミュニティの形成

- ・言葉の壁などがあるので、アクティビティを中心としたイベントをいろいろと開催したほうがよい。
- ・子ども中心のアクティビティのイベントがあると、親同士で自然と関わりを作ることができる。

【グループ6】

■防災・災害

- ・事前準備がとても大切。外国人市民は避難所がどこにあるかなどをもっと知ったほうがよい。
- ・災害時のニュースの字幕に、少しでも多言語や〈やさしい日本語〉があるとよい。
- ・外国人のコミュニティは災害時にどのように連絡をとり、情報共有しているのか。
- ・熊本地震のときに、情報発信がしっかりされていたという話があり、川崎市でもそういった事例を踏まえた研修をすることもよいのではないか。

■医療

- ・病院で、日本語がわからない人への対応や通訳機能など、まだ十分に整っていないところもある。
- ・同じ病院に通い続けると、言葉に多少の不安があっても、病院の先生がある程度状況をわかってくれると思う。
- ・「おくすり手帳」は日本語のみなので多言語化するとよいのではないか。

■共生コミュニティの形成

- ・外国人同士ではオンラインのコミュニティが主に作られる。
- ・川崎市でも、外国人への情報発信のために小さいコミュニティを作るとよいのではないか。
- ・町内会、自治会について、外国人はよく知らないので、知っておくべきではないか。
- ・町内会の情報を簡単に多言語化することもよいのではないか。

4 コメンテーターからのコメント

- ① 小さなまちに住んでいる外国人の人たちは、自分たちの意見や困っていることを共有する場がなく、自分たちがそのまちの一員として認識されているという実感をなかなか持てないという話を実際聞いたことがある。それを踏まえると、代表者会議は素晴らしいシステムである。
- ② 代表者の皆さんが川崎市の一員として、また、外国人市民の代表として責任感をもって、インプットをし、市をもっとよくしていこうという姿勢が素晴らしい。
- ③ このディスカッションの機会がお互いの情報を共有する機会に確実になっている。例えば、防災訓練がどのくらい役に立つかを、実際に参加した人が共有するという場面があったが、とても重要である。
- ④ 川崎市はいろいろな施策をやっていて、整っている部分が多くある一方でまだ、整っていない部分もある。そのことが、この場で共有されている。例えば、医療

の話題で、どういった問題について、ピンポイントで手が届いていないのかをお互いに知ることができる。今日のディスカッションのような場というのはとても限られている。

- ⑤ 1個の論点が、もう1個別の論点に生産的につながっていく場面があった。例えば、子どもの日本語がうまくなるスピードに親がついていけず、コミュニケーションが途切れてしまうという話題が出た際に、継承語を学ぶ機会の重要性という話題につながる場面があった。
- ⑥ オープン会議はもちろんのこと、代表者会議自体が、すでに行われている施策を複数の目で冷静に判断し、その有効性を検証する場になっている。例えば、情報をどのように届けるかということが多くの自治体で話題になるが、この場では、情報がどのくらい届いているのかを、実際に検証することができる。
- ⑦ 代表者によるグループディスカッションのファシリテーションが素晴らしかった。議論が盛り上がり、譲り合いもあり、対話もできていて、まさに異文化交流の理想的な場。これほど質のよいディスカッションに参加できる機会はなかなかない。
- ⑧ 「情報へのアクセス」が共通の関心ごとであったように思う。行政のサービスに関する情報は日本人市民でも探すのが大変で、必要なときに必要な情報をどう探してよいかわからないという問題がある。「個別と普遍」というスローガンがあるが、「情報へのアクセス」は日本人市民にとっても非常に重要なテーマだと思った。
- ⑨ 代表者会議という、外国人市民の市政参加の権利を保障する場があるというのは川崎市に特有のこと。外国人市民代表者会議条例では、外国人市民は「本市の地域社会の構成員である」とはっきり言っておりとても珍しいことである。
- ⑩ 代表者会議を代表者が自主的に運営していることが素晴らしい。
- ⑪ 外国人市民代表者会議条例では、代表者からの「報告又は意見の申し出(提言)」を市長が「尊重する」と言っている。これは、聞く責任が市長の側にもあるということである。提言の達成率「86.3%」というのは、意見、提言を尊重する仕組みがしっかりと整っていることの表れだと思う。
- ⑫ 代表者会議の成果を2つ挙げたい。1つは、1996年度の提言で「入居差別を禁止する条項を盛り込んだ条例を制定する」という提言がある。これを受け、川崎市では2000年に住宅基本条例が制定された。さらに、代表者会議は2015年度にも、条例がしっかりと実施されるよう、そのための工夫を提言していて素晴らしい。もう1つの成果は、2011年度の提言で、「外国人市民に関する調査を5年に1度実施

する」という提言がある。そして、川崎市ではしっかり5年ごとに調査をしている。これらもまた、意見、提言を尊重する仕組みがしっかり整っていることの成果だと思ふ。

- ⑬ 川崎市でできることとできないことがやはりある。達成できていない提言の中には、入管の問題とか、国民年金の問題、地方参政権の問題、公務員になれるかなれないかの権利の問題などがあり、こういった川崎市だけでは解決できない問題が起こっていることも明らかである。川崎市は代表者会議の提言を受けて継続的に国への働きかけを行っている。
- ⑭ この代表者会議を30年近く続けてきたことは素晴らしいこと。第15期の代表者が30年目の提言をするということで、引き続き素晴らしい審議が続いていくことを期待している。
- ⑮ この場に来られない外国人市民のことを想像して欲しい。代表者の皆さんは、情報へのアクセスの問題があるとはいえ、代表者会議がある、この場に来られる、日本語で議論ができる、日本人市民と交流できるという能力を持っている。そういう機会を得られない外国人市民のことも思い出して審議をしていって欲しい。

5 臨時会（オープン会議）参加者アンケート

(1) グループディスカッションについて

- ① 想像以上に深い話できた。日本人同士でもテーマごとに認識の違いがあったりすることなどを知れて、有意義だった。
- ② ディスカッションの時間については、どのテーマもちょうどよかった。どの代表者の意見も経験や専門知識をもとにしたものだったので、多くのことを学べた。
- ③ 近所の人と知り合い仲良くなると、外国人も含めて気軽に相談しやすい状況になると考えた。文化習慣の違いもあると思うが、対話をお互いに持つことにより次第に乗り越えられると思った。
- ④ 参加者の皆さんから生きた意見や悩み事も聞けて大変勉強になった。ディスカッション中に出た代表者からの悩みごとに対して、傍聴者の方からアドバイスや回答がその場ですぐに与えられた様子も印象的だった。外国人市民代表者会議は、素敵な多文化共生コミュニティだと思った。
- ⑤ 小人数であること、外国人当事者が多かったことで話しやすい雰囲気だった。

(2) あなたの声を聞かせてください

- ① もっと日本人が参加するとよいと思った。参加しやすいイベントであることをもっとアピールする必要があると思う。
- ② 代表者会議が川崎市特有の取組であることを知り、参加できてとてもよかった。少しでも、外国人市民の方の生活の助けになればよいと思った。
- ③ 外国人の方と知り合い、お互いの意見交換をできる機会として有意義なイベントだった。
- ④ このような会議の場合、日本人が会議を進めていくことが多いと思うが、外国人の方が主体的に会議を進めていることが素晴らしかった。自らが進んでよりよい社会にしたいという思いが伝わってきた。身近で、外国人の方との交流が増えると思う。
- ⑤ 自分が川崎市の市民の一人であることを再認識した。責任感を持って生活したいと思う。



Kawasaki City Representative Assembly for Foreign Residents

かわさきしがいこくじんしみんだいひようしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

おーぷんかいぎ オープン会議

*** 2024年12月15日(日) 14:00 - 17:00 ***

*** 中原市民館 ***

□ 司会 単望舒 / フストフスキーフ アナスタシア

- 開会 14:00 - 14:05
主催者 / 川崎市あいさつ
- 第15期代表者の自己紹介 / 代表者会議の説明 14:05 - 14:25
- グループディスカッションの説明 14:25 - 14:35
《グループわけ・移動・休憩(15分)》
- グループディスカッション 14:50 - 16:00
《移動・休憩(10分)》
- 全体会 16:10 - 16:55
 - グループディスカッションの報告
 - コメント
 - 土田 久美子 (駒澤大学文学部 准教授)
 - 加藤 恵美 (帝京大学外国語学部 准教授)
- 閉会 16:55

交流会 (- 17:30)

